

平成29年度 第1回 地域自立支援協議会で出た意見

○第1回は、それぞれの部会の今年度の進め方についての報告と今年度、協議会のもとに時限的に設置する計画部会、第5期の障害者計画、障害者福祉計画について意見をいただいた。部会の今年度の進め方については、特段意見がでなかった。

○計画に関しては、以下の意見が出された。

【就労】

- ・自宅勤務のことも考えてほしい。自宅で仕事をすることもあるが、ヘルパーが使えない。通勤にもヘルパー利用ができないので考えてほしい。
- ・すまいるで就労に関するミーティングをやっているが、法定雇用率が上がったので就労している人が多くなっているが、責任ある仕事につかせてもらえない。データ入力など事務系の仕事に行ってしまうがち。
- ・就労については、知的障害者で一人では通勤できない方、通勤の練習をすればできる方など、通勤の課題がある。
- ・日中活動の居場所として、就労継続支援B型や生活介護の施設が不足している。杉並区は似たような生活介護や就労継続支援B型が多いが、区外には多様な就労継続支援B型の施設もできているので、内容にも着目していくと社会資源が豊かになるのではないか。

【住まい】

- ・実際の生活の場での意見をどういう風に計画に反映させるか、部会で工夫をしてもらえれば
- ・どこで暮らしたいかの数値について、グループホームや施設に入りたいとは思わないのでは？
- ・後期高齢者の親が障害者の子ども(成人)をみている現状もある。親の意見、当事者の意見、それぞれを踏まえていくことが大事だと思う。
- ・家賃が払えないのは本当にそう思う。保証人がいない。

【その他】

- 医療** ・自分の病気を正しく理解するのは必要だが、ドクターによって違ったりする。自分の病気は何なんだろうと悩んだり、正確な病識が持てない。自分の障害理解の入口で迷う。かかりつけ医がいない。自分は内科にもかかっているが、精神科の薬で内科的な数値が上がってしまう。副作用でも数値が上がる。精神科と内科の連携が進まない。
- 支援** ・ゴールデンウィークなど、窓口が一斉に休みになってしまい生活リズムが崩れてしまう。どこか窓口を開けてもらえたらとの意見がすまいるを利用する人の中ででている。
- ・ハード面の整備とソフト面の支えは重要。支援者の人的確保ができないことも課題。
 - ・軽度知的障害者や、触法障害者を地域でどう支えていけばよいのか？支援が難しい。
- 普及啓発** ・調査報告で一番大きな課題は「障害理解」ということだが、具体的に計画に盛り込むのがとても難しい。そこを念頭に置いて、どう計画に反映させるかを忘れないで考えたい。
- 地域移行** ・精神障害者の地域移行の二ーズも踏まえて計画を検討していただきたい。